

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当を行う場合 毎年9月30日 (その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
公告方法	電子公告の方法により行います。 ホームページアドレス https://www.honyakuctr.com ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ スタンダード
証券コード	2483

- 住所変更等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

見通しに関する注意事項

この報告書には、翻訳センターグループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で入手可能な情報から判断した見込みであります。世界経済の動向、税制や諸制度などに関するリスクや不確実性を際限なく含んでおり、実際の業績や結果は当社の見込みと異なる可能性があることをご承知おきください。



株式会社 翻訳センター
経営企画室
Tel: 03-6369-9963
e-mail: info@honyakuctr.co.jp



この印刷物は、福島県内の印刷会社にデザイン制作及び製造を依頼し発行したものです

個人投資家向け説明会 開催報告

翻訳センターでは株主ならびに当社にご興味をお持ちの皆さまに当社グループの事業内容や今後の戦略などを直接ご説明する「個人投資家向け説明会」を各地で定期的に開催しております。

2019年3月期 開催実績

2018年9月1日 東京・大手町KDDIホール

2018年9月15日 広島・ひろぎん証券

2018年12月25日 東京・日本投資環境研究所

2019年2月20日 東京・みずほ証券成城支店

翻訳センターウェブサイト
リニューアルのお知らせ

翻訳センターはこの度、ウェブサイトを全面リニューアルいたしました。ウェブサイトをご利用の皆さまにとってより見やすく、使いやすいサイト構築を目指し、内容の充実と適切な情報開示に努めてまいります。

<https://www.honyakuctr.com>

(IR情報)

<https://www.honyakuctr.com/ir/>

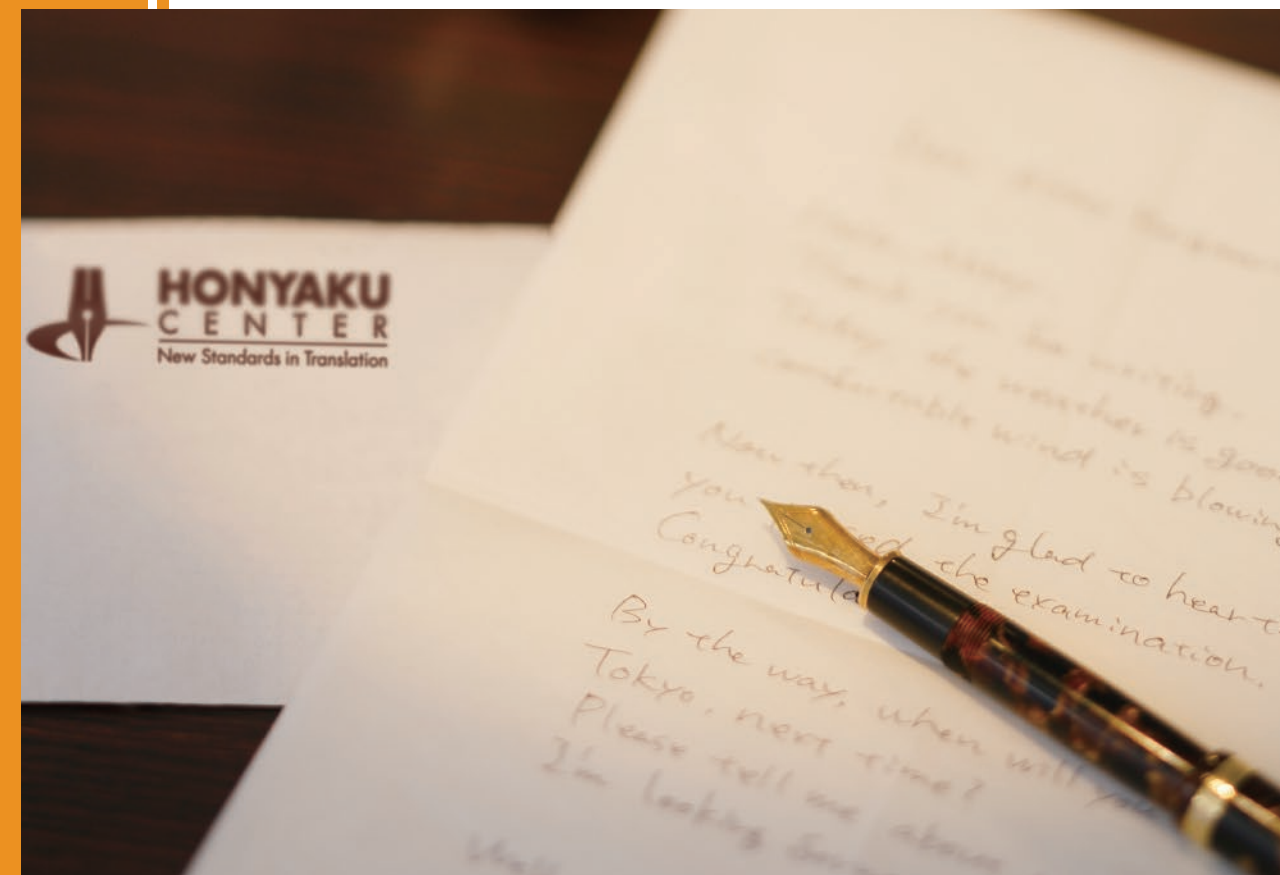
詳しくは ▶▶▶



株式会社 翻訳センター

第33期 期末のご報告

2018年4月1日～2019年3月31日





代表取締役社長

二宮俊一郎
Shunichiro Ninomiya

第四次中期経営計画で掲げた

ニューラル機械翻訳(NMT)をはじめとする

最先端技術の戦略的活用により、

さらなるシェア拡大を目指してまいります。

Q1 当期業績についてお聞かせください。

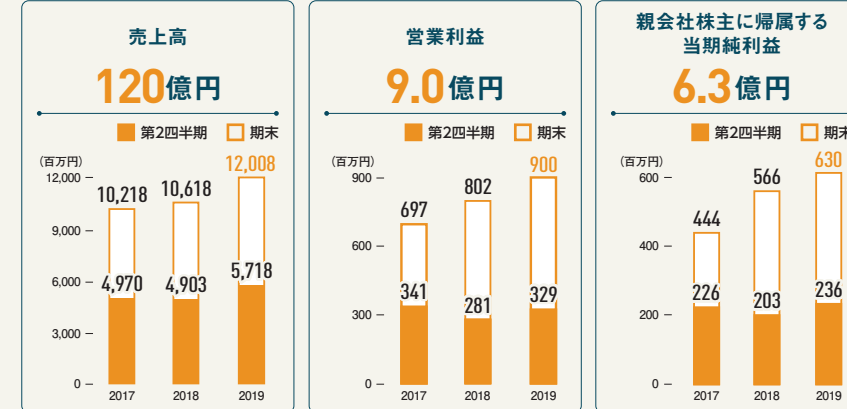
第四次中期経営計画(2019年3月期～2021年3月期)に基づき、コアビジネスである翻訳事業の持続的成長を目指すとともに機械翻訳や翻訳支援ツールなど最先端技術の積極的な活用を推し進めた結果、売上高、利益ともに過去最高を更新しました。翻訳事業では、特許分野での受注が好調で、医薬分野も国内外の製薬会社からの安定した受注に加え、CRO(医薬品開発受託機関)との取引が順調に推移しました。工業・ローカライゼーション分野は連結対象に加わった株式会社メディア総合研究所が売上の伸長に寄与し、金融・法務分野では企業の管理系部署との取引が順調に推移しました。派遣事業では金融関連企業、ITサービス関連企業、

医薬品関連企業からの求人が引き続き順調に推移し、通訳事業においては大手情報関連企業やIR通訳案件などの受注が好調に推移しました。コンベンション事業では「第8回太平洋・島サミット」、「第5回国際女性会議WAW!/W20」などの国際会議や医学会の大型案件の受託、運営が売上増に寄与しました。

Q2 機械翻訳(NMT)の進化で業界に変化はありましたか。

ニューラルネットワークを活用した機械翻訳(NMT)が実用レベルに進化したことで翻訳業界のパラダイムシフトが始まりました。当社は設立来、専門分野に特化した人手翻訳を展開していますが、その人手翻訳に機械翻訳をはじめとした最新のテクノロジーを組み合わせ、翻訳工程の

2019年3月期連結業績



効率化と言語資産の有効活用を目指しています。

Q3 新しい中期経営計画を発表して1年が経ちました。

第四次中期経営計画で掲げた3つの重点施策は遂行進度に差はあるものの着実に前進しており、手応えを感じています。翻訳工程への機械翻訳導入は登録翻訳者の皆さまのご協力もあって順調に進んでいます。また(株)みらい翻訳が開発するAI搭載の機械翻訳「Mirai Translator™」の販売促進策としてサービスメニューの見直しや外販体制を強化しました。お客様には「Mirai Translator™」がお客様の翻訳業務の効率化を実現するツールだということ、購入いただいた機械翻訳エンジ

ンの成長には人手翻訳で生成されるデータの再学習が不可欠であることをアピールし、人手翻訳の需要取り込みを図っていきたくと考えています。コーディネータの社内業務効率化を目指した業務プロセス改善システムは現在開発中であり、2020年3月期の下期から稼働を予定しています。

Q4 株主・投資家への皆さまへメッセージをお願いします。

おかげさまで第四次中期経営計画は着実に推進しています。中計2期目となる2020年3月期は各施策の遂行進度をより加速させ、さらなる市場シェア拡大を目指してまいります。今後とも、皆さまのご理解とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

TOPICS

自己株式取得終了のご報告

当社は資本効率の向上を目的として、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式の取得について下記の通り実施し、終了しました。

1.2019年2月14日開催の取締役会における決議内容

- 取得対象株式の種類:当社普通株式
- 取得し得る株式の総数:50,000株を上限とする(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.48%)
- 取得し得る株式の総額:150,000,000円を上限とする
- 取得期間:2019年2月15日～2019年3月22日
- 取得方法:①自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による買付け
②東京証券取引所における市場買付け

2.上記1に基づき取得した自己株式の累計

- 取得した株式の総数:50,000株(うちToSTNeT-3による買付け総数10,000株)
- 取得総額:123,113,800円
- 取得期間:2019年2月15日～2019年3月18日(約定ベース)

第四次中期経営計画における 最新テクノロジー活用の現状

当社の取り組み

ニューラルネットワークによる機械翻訳(NMT)の進化により翻訳業界のパラダイムシフトが始まりました。翻訳センターは顧客ニーズや市場の変化に対応すべく、機械翻訳をはじめとした最新テクノロジーの活用を戦略の柱とする新・中期経営計画(第四次中期経営計画、2019年3月期～2021年3月期)を推し進め、市場シェアの拡大を目指しています。

最新テクノロジーの活用戦略は3点あります。1点目は「機械翻訳導入顧客における顧客内シェア拡大」です。(株)みらい翻訳が開発する機械翻訳「Mirai Translator™」の導入をきっかけに、お客様に人手翻訳から生成される言語資産の活用をご提案し、機械翻訳エンジンの精度向上と顧客企業内に散在する人手翻訳の集約に繋げていく施策です。2点目は「翻訳作業のIT化」です。翻訳者の作業工程に機械翻訳を組み込むことにより生産性と品質の向上を図ります。3点目は「業務プロセスの標準化と自動化」です。社内工程、特に翻訳工程を設計するコーディネータの作業を標準化し、一部の作業を自動化することで業務の効率化を図ります。

パートナー企業 (株)みらい翻訳について



(株)みらい翻訳はAI搭載の機械翻訳とサービスを提供する国内有数の機械翻訳エンジン開発会社です。翻訳センターは2017年10月に資本参加し、同社開発の機械翻訳「Mirai Translator™」の販売代理店として、当社顧客への導入・活用を提案しています。

機械翻訳「Mirai Translator™」

機械翻訳「Mirai Translator™」は国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)との共同研究成果を利用し、(株)みらい翻訳が製品化した企業向けのクラウド型機械翻訳サービスです。ニューラル機械翻訳(NMT)エンジンを搭載し、これまでにない高い翻訳精度を実現しています。

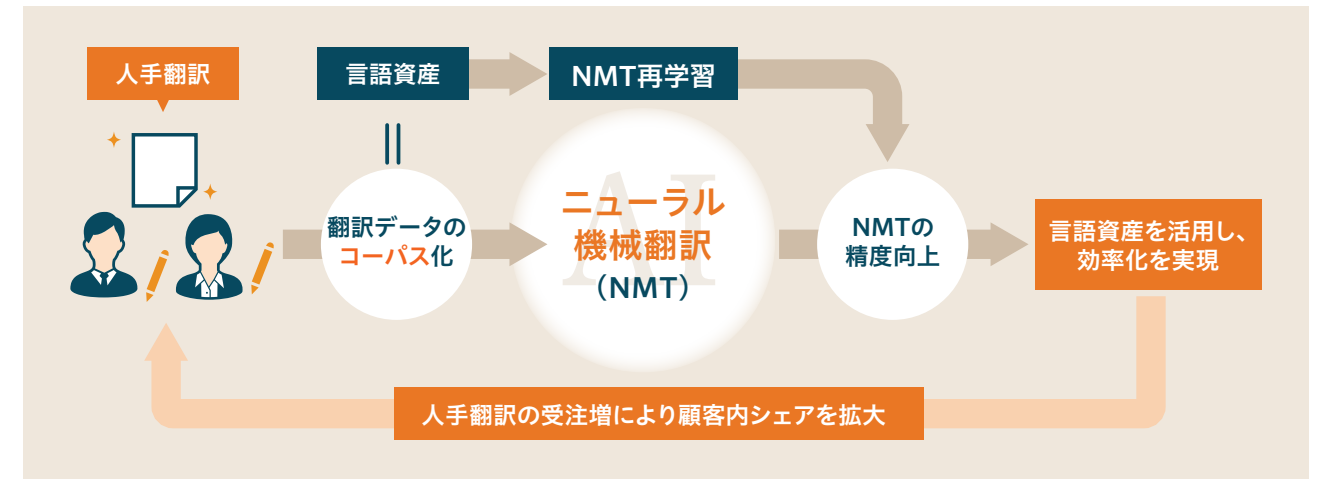
従来型の機械翻訳は製品名、専門用語、特殊な社内用語などのユーザ辞書登録管理機能や翻訳結果を定型化し文章を登録しておく翻訳メモリ機能などを備えています。が、「Mirai Translator™」はこれらに加えて過去の翻訳の結果(=コーパス)を機械翻訳エンジンに追加学習させ、個社向けにカスタマイズすることが可能です。

「Mirai Translator™」お試し翻訳



出典：(株)みらい翻訳 ウェブサイト
<https://miraitranslate.com/trial/>

ニューラル機械翻訳(NMT)を活用したビジネスモデル



機械翻訳の基礎知識

●ニューラル機械翻訳(NMT)

ニューラルネットワーク(脳内で行われている信号処理の一部を計算機上で実現したモデル)を活用した機械翻訳(NMT)。辞書や文法に基づくルールベース翻訳(RBMT)やデータを確率的に計算したうえで訳出する統計翻訳(SMT)より流暢で自然な文を生成できるが、精度はコーパスの質、量に左右される。

●翻訳メモリ(TM)

過去に翻訳したデータを保存するデータベースのことで、言語資産の一つとされる。新たな文書を翻訳する際、蓄積されたデータを自動検索し同一または類似の表現を提示するなど、翻訳の業務効率を向上させる。その一方で、品質の劣る翻訳が保存された場合はその後の新たな翻訳に影響を及ぼすため、精度の高い翻訳データの蓄積と人によるメモリ管理が必要とされる。

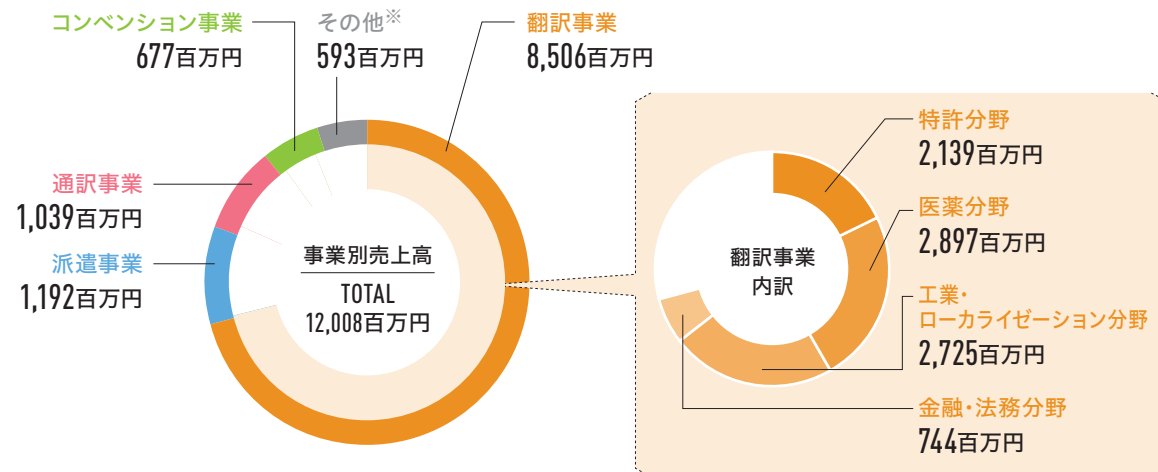
●コーパス

コーパスは本来言語学の用語だが、翻訳に関連して使用する場合は対訳表現を集めた文書を指し、原文と翻訳文のペアを対訳コーパスと呼んでいる。対訳コーパスは翻訳メモリから作成する場合と、対訳になっていないデータから作成する場合がある。後者の場合、人手または機械により文単位で原文と翻訳文を対応づけてコーパスを作成する。

●ニューラルネットワークの学習

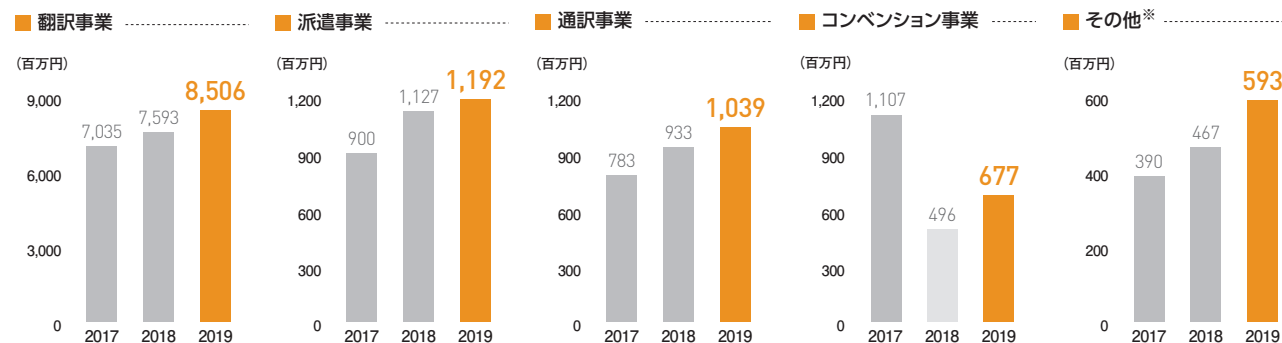
人間が望む精度の高い翻訳を実現するために対訳コーパスを使ってニューラルネットワークを構築する作業を指す。機械翻訳で精度の高い翻訳を出すためには品質の高い大量の対訳コーパスが必要になる。

事業別売上高 (2019年3月期)



※語学教育事業は当期よりその他に含めて報告しております。

セグメント売上高推移(2019年3月期)



※グラフは変更後の区分に基づいて作成

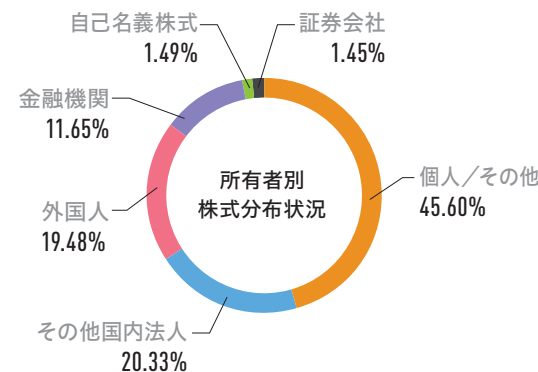
株式の状況 (2019.3.31現在)

発行可能株式総数	10,280,000株
発行済株式総数	3,369,000株 (自己株式50,350株を含む)
株主数	2,351名
単元株式数	100株

大株主 (上位10名)

株主名	株式数 (株)
エムスリー株式会社	663,000
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	305,600
BNYM NON-TREATY DTT	192,600
東 郁男	153,600
浅見 和宏	88,800
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	75,500
MSIP CLIENT SECURITIES	74,700
翻訳センター従業員持株会	59,000
BNYM TREATY DTT 15	54,100
二宮 俊一郎	51,900

> 株式分布状況



会社概要 (2019.3.31現在)

商号	株式会社 翻訳センター
設立	1986年4月
代表者	二宮 俊一郎
本社所在地	大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階
資本金	5億8,844万3,000円
従業員	507名 (連結)
事業内容	翻訳サービス業
関係会社	HC Language Solutions, Inc. 株式会社外国出願支援サービス 株式会社アイ・エス・エス 株式会社アイ・エス・エス・インスティテュート 株式会社パナシア 株式会社メディア総合研究所 ランゲージワン株式会社*

*持分法適用会社

役員 (2019.6.26現在)

代表取締役社長	二宮 俊一郎
取締役会長	東 郁男
取締役	武山 佳憲
取締役	魚谷 昌司
社外取締役	山本 淳
常勤監査役	妙中 厚雄
監査役	松村 信夫
監査役	大西 耕太郎